

第1号議案

2019年度事業計画について

平成29年に改正された「文化芸術基本法」では、文化芸術の意義と価値を尊重しつつも、文化芸術そのものだけではなく、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育などと連携し、文化芸術により生み出されるさまざまな価値を活用することにより、心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に貢献することを目的としている。

このような潮流のなか、芸術文化の薫りあふれるまちづくりを進めてきた神戸市において、文化による力が神戸をさらなる高みへと押し上げていくために、当財団は、市民とともに喜び合える文化事業を実施し、文化芸術の振興に取り組んでいる。

平成31年度は、現代アートの芸術祭「アート・プロジェクトKOBE 2019: TRANS-」（以下「TRANS-KOBE」）やベートーヴェンの全交響曲及び全協奏曲の演奏を行う「ベートーヴェン・チクルス」などの大型の鑑賞型事業に加え、神戸の子どもたちや障がいのある方にも芸術に触れていただけるインリーチ・アウトリーチ事業では、市内小学校に50回以上訪問することを予定し、これまで以上に充実させて多くの市民に良質な芸術文化を届けていく。

【主な事業内容】

(1) TRANS-KOBE

「世界に神戸を発信」し、「アートで人の賑いをつくり地域を活性化する」ことを目的として、兵庫港エリア、新開地エリア、新長田エリアを舞台に、現代アートを中心としたTRANS-KOBEを開催する。海外と国内からそれぞれ世界の第一線を舞台に活躍する作家を1名ずつ招聘し、地域の歴史や文化などを踏まえた作品を発表してもらい、既存の施設と連携しながら、街の空間や特色を活かしたアートの作品の創作・展示を行う。

(2) ベートーヴェン・チクルス

ベートーヴェン生誕250年の節目の年に際し、神戸文化ホール等において、ベートーヴェンの全交響曲・全協奏曲を演奏するコンサートをシリーズ化し、計7回（9公演）に分けて開催する。出演者として、神戸市室内管弦楽団、神戸市混声合唱団のほか、国内外より著名な指揮者、ソリストを招聘し、神戸ならではの音楽を発信することで、両団の周知・魅力発信を行う。

(3) 村田沙耶香×松井周 inseparable 新作公演「変半身（かわりみ）」

芥川賞作家/村田沙耶香と岸田戯曲賞作家/松井周が、国内外での取材を経て、作品世界とコンセプトを一緒に考えながら「予想を超える未来」を描き出す。村田氏にとっては初の舞台作品であり、図書館と連携した関連イベントも実施。演劇プロデューサーで実績のある制作会社と、3つの地域に根ざす公立文化施設（神戸文化ホール、三重県文化会館、ロームシアター京都）による共同制作のオリジナル演劇公演。

(4) KAVC FLAG COMPANY 2019-2020

KAVC 舞台芸術プログラム・ディレクターであるウォーリー木下氏による演劇セレクション。関西を中心に活躍する気鋭のカンパニーをシリーズで紹介する。

＜公益目的事業＞

1 文化振興事業

(1) 事業方針

- ①市民の文化向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供
- ②芸術文化による神戸ブランドの創造発信
- ③市民参加型芸術文化事業の充実
- ④地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援
- ⑤情報収集・提供の充実（多様な文化芸術の紹介）
- ⑥芸術文化を担う人材の育成

(2) 事業内容

① 市民の文化向上に資する質の高い鑑賞型事業の提供

市民に感動を与え、感性や創造性を育む質の高い芸術を鑑賞出来る機会として、ウィーン・フィル所属のヘーデンボルク直樹率いるヘーデンボルク・トリオによる演奏会を開催する。また、病院等においてプロのアーティストによるアートプログラムに触れる機会を創出し、ホールに来ることが困難な人に対しても鑑賞機会の提供を図る。

② 芸術文化による神戸ブランドの創造発信

「TRANS-KOBE」では、ラグビーワールドカップ 2019 の開催に合わせて、兵庫港エリア、新開地エリア、新長田エリアを会場とし、世界的に活躍する著名な現代アートの作家による作品展示を行い、知られざる神戸の魅力を掘りおこし国内外に紹介する。また、「KOBE ミュージックポート～秋の音楽祭～」を「TRANS-KOBE」の時期に合わせて開催するほか、2年後の「第10回神戸国際フルートコンクール」に向けた準備など、神戸ブランドの創造発信を行う。また、「ジャズの街神戸」推進協議会の事業では、「神戸ユースジャズオーケストラ」の活動推進や、「KOBE JAZZ DAY 2019」等に取り組む。

③ 市民参加型芸術文化事業の充実

市民による芸術文化活動の発表機会を創出するため、KOBE ミュージックポートの中で「フルート 500 人アンサンブル～みんなで奏でる大人数オーケストラ」を実施するなど、市民参加型事業を展開する。また、「TRANS-KOBE」ではアーティストによる作品展示に加え、アートを楽しむきっかけとして、市民をはじめ誰もが参加できるパブリックプログラムを公募等の企画により実施する。

④ 地元芸術文化団体との協力関係の強化及び若手芸術家の発掘・支援

神戸文化の基盤となっている地元芸術文化団体の活動を支援するとともに、協力関係の強化を図る。また、「神戸市吹奏楽祭」、「JAPAN STUDENT JAZZ FESTIVAL」等を通じて、今後の神戸文化の担い手となる若手人材の育成を支援する。さらに、「TRANS-KOBE」ではパブリックプログラムの企画等において地元集う地元芸術文化団体・アーティスト・クリエイターと連携し、事業を推進する。

⑤ 情報収集・提供の充実

多種多様な芸術文化活動を広く紹介するため「KOBE C情報」を毎月発行するとともに、SNSを活用するなど、情報発信機能の強化を図る。

⑥ 芸術文化を担う人材の育成

各種事業の企画・実施を通じて、アートマネジメント能力の向上を図るなど、「担い手」としての養成・機会確保に努める。

2 演奏事業（神戸市室内管弦楽団・神戸市混声合唱団）

（1）事業方針

- ①神戸文化ホールおよび区民ホール等における質の高い演奏の提供
- ②演奏水準のさらなる向上
- ③広報強化、アウトリーチの実施による両楽団の周知
- ④自主公演への集客強化と新たな依頼公演の獲得

（2）事業内容

① 神戸市室内管弦楽団

神戸市室内管弦楽団では、国内外で活躍する指揮者・ソリストをゲストとして招聘し、演奏会の充実を図る。また、3か年事業の最終年を迎える「CLASSIC PLUS」では、世界で活躍する神戸ゆかりアーティストを招聘するとともに、神戸タータンやスイーツなどとコラボレーションした会場づくりや事前講座の開催、高校・商店街などへのアウトリーチを実施する。

《神戸市室内管弦楽団定期演奏会》

定期演奏会	6月：エリーザベト・ヴェーバー（ヴァイオリン） 9月：ヨハネス・マイスル（指揮）、長尾 春花（ヴァイオリン）、 アヴェディス・クユムジャン（ピアノ）
ベートーヴェン・チクルス	前夜祭：秋山 和慶（指揮）、伊藤 恵（ピアノ） 第1回：リュウディガー・ボーン（指揮）、エリソ・ヴィルサラ ゼ（ピアノ） 第2回：ジョナサン・コーエン（指揮）、キム・ソヌク（ピアノ）

② 神戸市混声合唱団

設立30周年を記念し、指揮に山田和樹を迎え、東京混声合唱団と初の合同公演を開催するほか、秋・春の定期演奏会に下記の指揮者を招聘し演奏会を行う。また区民センターなどで行う公演では、新たなファン層獲得のため趣向を凝らした公演を開催する。

《神戸市混声合唱団定期演奏会》

9月	藤井 宏樹（指揮）「テーマ：世界への希望」
3月	松村 努（指揮）「テーマ：春へのあこがれ」

③ 両楽団の周知・魅力発信の取り組み

2つの楽団を持つ強みを活かし、合同公演を区民センターで初めて実施するとともに、商店街や集客力のあるショッピングモールなどでまちなかコンサートを行い、両楽団の周知および魅力を発信し、主催公演への集客や新たな依頼公演の獲得につながるよう、効果的なプログラムの検討および営業活動に取り組む。

また、子どもと一緒に鑑賞できるコンサートを新たに区民センターで実施するほか、次代を担う子ども達に対する鑑賞機会の提供のため、小学生を神戸文化ホールに招待する「インリーチ事業」と、小学校へ出張演奏を行う「アウトリーチ事業」を、6年間で市内全小学校に訪問するよう、拡充して取り組んでいく。

3 神戸文化ホール公演事業

(1) 事業方針

- ①神戸文化ホールを拠点とした芸術創造・発信事業の積極的な展開
- ②優れた舞台芸術の鑑賞機会の提供及び鑑賞教室や解説セミナーなどの実施
- ③財団のネットワークを活用した市民・芸術家・文化団体・他地域の文化施設などとの交流・連携事業の実施

(2) 事業内容

① 芸術創造・発信事業

神戸市室内管弦楽団及び神戸市混声合唱団の公演や神戸の文化発信の基盤である地元芸術団体、文化の担い手である若手芸術家に発表の機会を提供するとともに、市民の参加や地域及び他地域の文化施設との連携により、文化施設としての機能充実につながる事業を展開する。また「創造・発信」への取り組みをより発展させていくために、制作や技術面でのスタッフの能力向上に努める。

② 教育普及・育成事業

子どもたちや働き盛りの若い世代など、様々な世代が気軽に施設に集い、交流し、楽しみながらアートに親しむ「テーマパーク」型イベントを実施する。

能、狂言、歌舞伎の鑑賞教室や解説セミナーを実施して、世界に誇る伝統芸能を学ぶ機会を提供するとともに、国内外で活躍する一流の作家や演出家、舞踊家から直接レクチャーやワークショップを受ける機会を設け市民とアーティストの出会いを生み出す。

また、市内の小学生を招待するインリーチ事業や芸術家が学校に出張するアウトリーチ事業を実施し、文化・芸術の普及に貢献する。

③ 鑑賞型事業

国際的にレベルの高い公演や、民間興行では実現しにくい公演などを中心に、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供する。

具体的には、中高年を中心に根強い人気を誇る「アルゼンチンタンゴ」のほか、45回目を迎える「東西落語名人選」や「松竹大歌舞伎（座頭 中村鴈次郎）」など開館当時から続く伝統的な公演を継続する。

4 神戸文化ホール貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ①弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供
- ②施設利用者、来館者の意見を反映したホール運営
- ③文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援
- ④基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

(2) 事業内容

① 弾力的なホール運営と専門性の高いサービスの提供

年中無休、早朝仕込み・深夜撤収など、ニーズに応じた弾力的な運用を継続する。
また、舞台スタッフによる専門性の高い舞台運営、ホスピタリティ溢れるホール運営で利用者をサポートする。

② 施設利用者、来館者の意見を反映したホール運営

利用後のアンケートや「お客様の声 BOX」でいただいたご意見・ご要望をもとに、ホール運営全般の改善に努める。

③ 文化の発信拠点として地元芸術団体・若手芸術家を支援

抽選会における優先利用制度や練習利用の割引料金制度による地元芸術団体、若手芸術家の活動支援を継続する。

④ 基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営

設備全般にわたる日常的な点検の実施、不良箇所への速やかな対処に努め、神戸市の公共基幹ホールにふさわしい安全・安心な管理運営を行なうとともに、市と連携して老朽化が進んでいる大ホール及び中ホールの舞台機構（吊物）について更新を行う等施設及び設備の改築更新を進める。

また、チケットの発券や貸館予約システム等のシステム改修を行い、ICT環境を充実するなど、利用者にとって使いやすいサービスを提供する。

5 神戸アートビレッジセンター（KAVC）事業

（1）事業方針

- ①先進的な芸術文化の事業の実施
- ②アートの世界への入り口となるワークショップや講座等の実施
- ③市内外の文化施設や教育機関等との交流及び連携
- ④事業を通じたまちの賑わいづくり及び活性化への寄与

（2）事業内容

① 演劇・舞踊事業

舞台芸術プログラム・ディレクターであるウォーリー木下氏が関西の気鋭劇団を7つセレクトし、シリーズで紹介する。関連企画として、ゲストを迎えてのアフタートークやワークショップを充実させ、多角的に演劇を楽しめるような仕組みをつくる。また、全ての公演で批評を書いてもらい、WEB上で掲載、演劇文化を積極的に発信する。

若手ダンサーのショーケース公演「ダンスの天地」、高校生を対象にしたGo! Go! High School Projectを実施する。

② 美術事業

ART LEAP 2019では、審査員に森美術館副館長兼チーフ・キュレーターの片岡真実氏を迎え、30-40代の中堅作家を対象にした公募の個展を行う。

2017～2018年度に発行した「###（メッシュ）」で扱った技法などを用いて、シルクスクリーンのワークショップを神戸アートビレッジセンターの内外で行い、シルクスクリーンの普及と「###」の販売促進に努める。また、フィンランドからシルクスクリーン作家が来日するのにあわせてC.A.P.（NPO法人 芸術と計画会議）と連携事業を展開する。

③ 映像事業

大手映画館では上映されないが、質の高い映画を上映するアート系シアターとして、1か月につき2週間4～5作品を目安に新作上映を行う。世界一流の演劇作品を映像として見せる「英国ナショナルシアターライブ（NTL）」の新作を扱うことができるようになり、NTLで上映する作品について、大学教員など第一人者が解説する連続講座や、興行映画プログラムに関連して行うトークなど、映画を観るだけでなく深めるプラスαの企画も実施していく。

④ 音楽・地域事業

ジンバブエの民族音楽・舞踊グループ「ジャナグル」の公演を新開地商店街と兵庫公会堂で行う。（一財）地域創造と共に行うコンテンポラリーダンス活性化事業では、地域事業として中学校へ出かける。新開地や元町の映画館と一緒に商店街店舗とも連携して行う地域映画祭「KOBE CINEMA PORT フェス」、小学校と取り組む美術事業「NEW OPEN AREA」も引き続き実施する。

また、新開地夏まつりや冬まつりでのワークショップや、1roomの大きなガラス面に絵を描いて消すワークショップなど、地域に住む小さな子どもたちを対象にした企画にも取り組んでいく。

6 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ①柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供
- ②若手芸術家の支援及び地元地域団体との協働
- ③複合文化施設にふさわしい安全・安心な管理運営

(2) 事業内容

① 柔軟な施設運営と専門性の高いサービスの提供

早朝・深夜の仕込み・撤収など、開館時間内に収まらない場合も、利用者の要望に応じて柔軟に対応する。

また、小劇場の特性を活かし、多種多様な催し物に対応できるオペレーションやプランニングの提案など、専門性の高いサービスを提供していく。また、アンケート調査などで得た、利用者等の意見をサービス向上のための改善に活かしていく。

そのため、スタッフ研修などを行うなど、職員の資質向上を図りながら、練習から発表までを補える複合文化施設の特徴を生かして多様な文化活動を支援し、幅広い客層を取り込むことで、地域の賑わいづくりに繋げていく。

②若手芸術家の支援及び地元地域団体との協働

旗揚げ公演や学生劇団（サークル）などの、発表経験の少ない団体への活動支援として、専門スタッフによる打合せ・相談・アドバイスなど積極的にサポートができる体制を整えるとともに、1 room でのチラシ設置や、神戸アートビレッジセンターの公式サイト内での公演紹介等、広報協力を行う。

地域団体との協働で新開地周辺の活性化事業に積極的に関わり、施設利用料金の減免などを行う。

③ 複合文化施設にふさわしい安全・安心な管理運営

設備全般にわたる日常的な点検の実施、不良箇所への速やかな対処に努める。神戸アートビレッジセンターは開館後 20 年以上経過しており、今年度はホール及びシアターの照明設備の更新ならびに、エレベーターの更新を行い利用者の利便性向上を図る。さらに、今後も老朽化による不具合も増えてくることから、小修繕による施設・設備の長寿命化を図りつつ、安全・安心な管理運営を行なう。また、LED 照明やセンサー照明等の省エネ設備への積極的な投資を行う。

7 区民センター講座・地域連携事業

(1) 事業方針

- ①「地域住民とともに歩む区民センター」として市民の文化活動ニーズに対応
- ②講座事業や地域連携事業の実施
- ③「区民センターサポーター」などによる事業運営への住民参画
- ④財団が有する文化事業運営ノウハウや、文化団体との人的ネットワークを活用

(2) 事業内容

① 講座事業

春季・秋季の「定例講座」として入門者・初心者対象の文化・教養・スポーツなどの講座を、また季節や住民ニーズなどを反映する「随時講座」を年間通じて開講する。

一方、受講率の低い講座の見直しや講師報酬への歩合制の導入などにより収支改善に努めるとともに、伝統芸能等公益財団法人として取り組む必要のある講座にも配慮しつつ受講者数の拡大を図る。

② 地域連携事業（地域住民参加型のイベント及び地域文化活性化事業）

各センターの特色を生かした住民参加型の事業に取り組むとともに、「だんじり」や「須磨琴」など地域の伝統文化や歴史を生かした事業を実施する。

また、「神戸能プレイベント」など神戸文化ホールとの連携事業を実施するほか、地域の保育所等に演奏家が赴くアウトリーチ等、地域の文化振興のための中核施設にふさわしい管理運営を行う。

また「市民の第九」では、勤労市民センターと区民センターの合唱団員で合同練習を経て本番公演行うなど（公財）神戸いきいき勤労財団（勤労市民センター）との連携にも取り組んでいく。

※地域文化活性化事業の例

東灘：書の芸術祭

葺合：影絵劇団かしの樹「おやゆびひめ・はらぺこプンタ」

生田：Shall We Music?

北：すずらんホール農村歌舞伎

北神：北神オータムフェスタ

須磨：講談で語る須磨の歴史

西：なでしこダンスフェスティバル など

③ 作品展示会・発表会

区民センターのギャラリーやロビー、ホール及び花時計ギャラリーにおいて、講座受講生をはじめとする市民の絵画、陶芸、写真などの作品展示会や舞踊、音楽等の発表会を実施する。

8 区民センター貸館・管理事業

(1) 事業方針

- ①料金割引制度や利用団体への広報・相談サポートなどの向上と積極的な広報活動による利用促進
- ②長年培ったノウハウの活用による、安全・安心で快適な利用環境の提供

(2) 事業内容

① サービスと利便性の向上

例：休館日の祝日開館、インターネット予約受付、インターネット無料接続サービスの提供、利用料金の割引対象拡充など

② 地域文化団体との連携強化による情報発信や運営サポート支援

例：地域文化団体の利用料金割引拡充、貸館利用団体専用掲示板設置など

③ 積極的な貸館セールス

例：「区民センターだより」発行、「友の会」・ホームページの活用

④ 省エネルギーや環境を意識した設備管理

例：節電、環境保護の取り組みの日常業務への組み入れ

9 広報事業

財団事業の市民への周知、芸術文化への市民参加の機会拡充、財団の収益向上などの観点から、広報体制を確立するとともに、メディアの活用など多様な手段により、これまで以上に積極的な広報 PR に努める。

(1) 文化情報誌 「KOBE C情報」の発行

市内及び近隣都市の文化に関する各種情報を市民に提供するため、月刊誌「KOBE C情報」を発行(35,000部/月)し、市営地下鉄・私鉄の各駅や、区民センター・区役所など市内外で幅広く配付する。

(2) 神戸文化ホールからの情報発信強化

神戸文化ホールの情報発信機能の充実を図るため、情報誌「ほーるめいと」を発行(18,000部/隔月)している。メールマガジンの発行の工夫や友の会入会キャンペーンを展開することで登録者を増やし、新規顧客につなげる。

(3) 区民センターからの情報発信強化

区民センターの情報発信機能の充実を図るため、チラシやホームページでの情報提供のほか、ポスティング、区民センターだよりの発行、友の会運営に取り組む。

(4) 神戸アートビレッジセンターの情報発信強化

情報発信機能を充実、強化するため、チラシやホームページ、SNS など幅広い広報 PR に努める。また広報誌「ART VILLAGE VOICE」の発行(季刊発行)、友の会「かぶっクラブ」の運営、施設サポーターの運営、神戸市内の文化施設との連携、ポスティングなど地域や他施設への定期的な情報発信に取り組む。

(5) インターネットによる情報発信

当財団が主催する主要事業などを幅広く紹介するとともに、管理している各施設の空室情報や講座の受講申込み、各種情報誌の内容をホームページに掲載する。

また、ツイッターやフェイスブック、インスタグラムなど多様な SNS を活用したりリアルタイムの情報発信に積極的に取り組むとともに、動画共有サイト等による事業広報を展開する。

(6) 広報 PR の強化

財団事業を総合的かつ横断的にプロモーションし、公演の入場者数や入場料収入の増加につなげていく。

また、話題性の高いコラボレーション番組の共同制作・放映、ラジオ番組作成、各種資料提供などマスコミを活用した情報発信に積極的に取り組む。

<収益事業>

(1) 神戸文化ホール貸館・管理事業

神戸文化ホールにおいて、コンベンションなど文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置や駐車場など神戸文化ホール利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要	大ホール	: 2043 席
	中ホール	: 904 席
	リハーサル室	: 150 名
	練習室 1~5	: 15 名~150 名
	多目的室・特別控室	
	自動販売機	: 7 台
	駐車場（神戸文化ホール練習場）	: 10 台

(2) 神戸アートビレッジセンター貸館・管理事業

芸術文化活動以外を目的とする活動の場の提供を図る。また自動販売機設置を行うほか、飲食店舗「はっちゃんの台所」など利用者へのサービス向上と地域の賑わいづくりにつながる 1 room の活用を行う。

※施設概要	多目的ホール	: 232 席
	視聴覚ホール	: 94 席
	ギャラリー	: 148 m ²
	リハーサル室 1~2	: 120 m ² ~189 m ²
	会議室 1~2、スタジオ 1~3、1room 等	
	自動販売機	: 4 台

(3) 区民センター講座・地域連携事業

当財団が指定管理者として管理運営する 7 区民センターにおいて、美容・スポーツなどの文化振興目的以外で利用者ニーズの高い講座や自主事業を開催する。

※例 講 座：健康体操、スポーツ吹矢、バドミントン、卓球など
自主事業：コミュニティフェスティバル、卓球大会など

(4) 区民センター貸館・管理事業

指定管理者である区民センターにおいて、イベントなど文化活動以外を目的とする活動の場を提供する。また自動販売機設置や駐車場等区民センター利用者へのサービス向上を行う。

※施設概要	大ホール	
	会議室、多目的室	
	和室・音楽室・美術室・陶芸室等	
	自動販売機	: 18 台
	駐車場（北神区民センター）	: 123 台

<法人管理運営事業>

(1) 専門性の強化・効率的な執行体制の構築

芸術文化事業についての研修等の充実を図り、職員の知識の向上及び専門性の強化など人材育成に努めるとともに、優秀な職員を固有職員として登用する。

2018年度から、職員研修を充実させ、職員に基礎実務研修や専門家を招聘した特別講義等を定期的で開催しているが、次年度においても人材育成プログラムの充実を図っていく。

(2) 経営基盤の強化

「中期経営計画 2021」で定めた目標の実現に向け、事業を着実に実施していくためには、経営の安定が必須であることから、事業収入の確保のほか、公的及び民間団体からの助成金の獲得、税制優遇制度を活用した寄附など外部資金の獲得に向けて、これまで以上に力を入れて取り組む。

また、当財団事業について、改めて再構築の観点から徹底的な見直しを進めていく。

昨年7月に地元経済界が立ち上げた芸術文化を支援する「神戸文化マザーポートクラブ」の事務局を当財団が担うことで、芸術文化界と地元経済界のつなぎ役を担うとともに、当財団としても経済界との関係を深め、当財団に対する企業協賛等支援の獲得を目指していく。

(3) KEMS ステップ2の活動

環境負荷低減を図り、神戸環境マネジメントシステム（KEMS）ステップ2の認証に基づく取り組みを着実に実施する。

V 数値目標

【芸術文化の創造・発信】

	2017年度実績	2018年度見込み	2019年度目標
創造発信型事業の数	113	95 (92)	95

2018年度見込みの欄の（ ）内は目標・計画（以下同じ）

【普及啓発】

	2017年度実績	2018年度見込み	2019年度目標
アウトリーチ実施回数	64	92 (30)	30

【国際交流事業】

	2017年度実績	2018年度見込み	2019年度目標
海外芸術家等による公演回等数	21	12 (12)	13

【指定管理施設管理事業】

1 神戸文化ホール

		2017年度実績	2018年度見込み	2019年度目標
利用率 (踏入率)	大ホール	94.4%	89.5% (82%)	82%
	中ホール	94.2%	92.7% (88%)	88%
利用率 (実利用率)	大ホール	83.8%	81.1% (72%)	72%
	中ホール	85.1%	84.3% (76%)	76%
利用者数	大中ホール	488,854人	38.1万人 (52.5万人)	52.5万人
	練習室含む	550,614人	44.1万人 (58.5万人)	58.5万人
利用者満足度		95.0%	96.7% (95%)	95%以上
友の会 加入数	個人	1,193人	1,300人 (1,500人)	1,500人
	法人	-	- (12社)	12社

2 神戸アートビレッジセンター

		2017年度実績	2018年度見込み	2019年度目標
利用率 (踏入率)	ホール	60.5%	67.7% (62%)	63.0%
	シアター	70.3%	80.1% (77%)	78.0%
	ギャラリー	68.6%	63.7% (77%)	78.0%
利用率 (実利用率)	ホール	53.1%	62.8% (62%)	63.0%
	シアター	62.6%	75.6% (77%)	78.0%
利用者数		162,791人	174,051人 (178,200人)	181,800人
利用者満足度		97.6	99.5% (85%)	85.0%

3 区民センター

		2017 年度実績	2018 年度見込み	2019 年度目標
利用率 (踏入率)	全体	75.4%	74.4% (80%)	79%
	うちホール	73.0%	70.0% (73%)	72.5%
利用率 (実利用率)	全体	50.5%	49.4% (52%)	51%
	うちホール	47.0%	44.4% (47%)	46%
講座受講者数		25,269 人	24,000 人 (25,000 人)	25,000 人
利用者満足度		97.7%	98.0% (95%)	95%

【財団管理・経営関係】

	2017 年度実績	2018 年度見込み	2019 年度計画
経営目標 (年度収支の均衡)	△21,713 千円	±0	±0